


よこと

夜毎の工テン





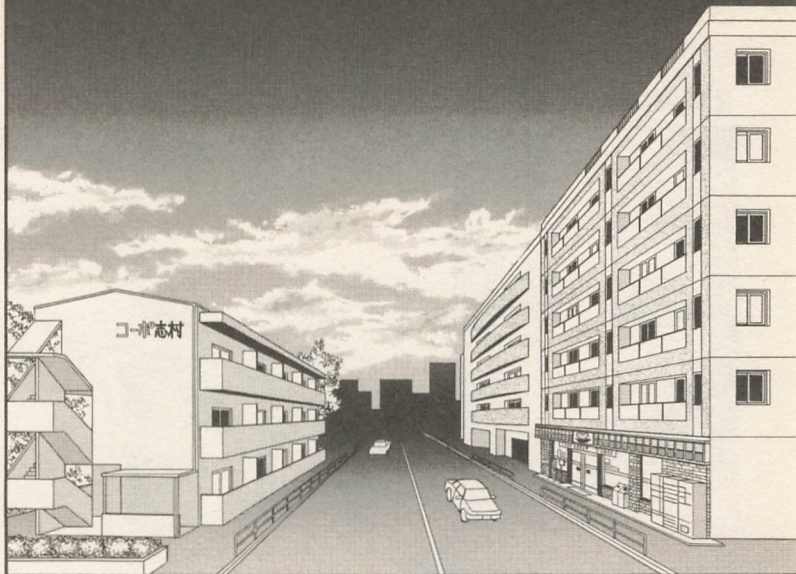
夢見ていたのは
祝福される
ウエディング

おめでと^うの^こと^うの^こと^うの^こと^う
ライス・シャワー

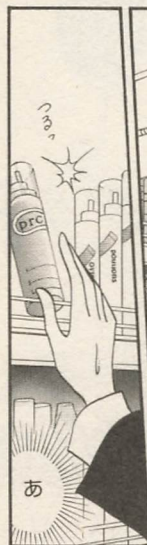
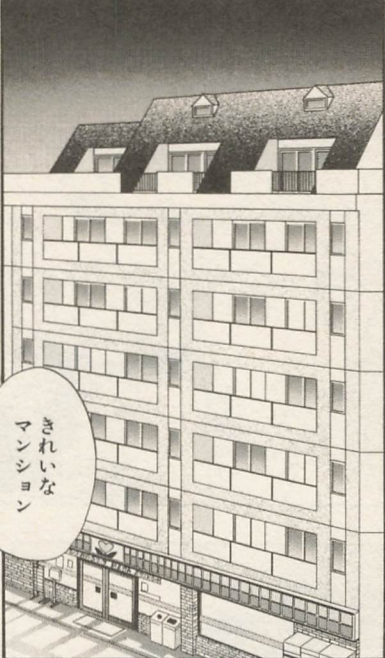
最愛の男性の傍^{かた}らで
私は世界一幸福な
花嫁になる

夜毎のエデン





夜毎のエデン

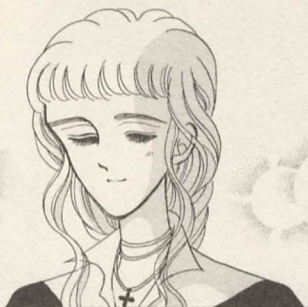






越してきて
初めての笑顔

なんだか
ホッとすると



新しい場所

新しい部屋

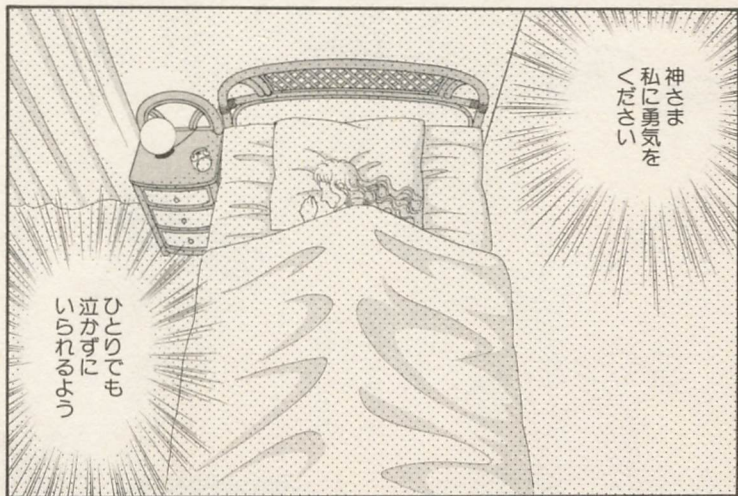
大学へ行けば
彼の姿を
見ないわけには
いかないけど

もう別れると
決めただから

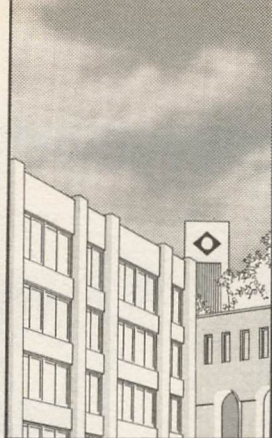


神さま
私に勇気を
ください

ひとりでも
泣かずに
いられるよう



夜毎のエデン





誰か人のいる
明るい場所が
恋しくなる



ひとりぼつちの
部屋にいると



よ

らっしやい



はっは

そりや
店長が
いい男だから

なんか
用もないのに
毎晩来ちゃう



.....



あは

あんまり
部屋にいたく
なくって……
情けないね

けっこう
当たってるかも



なんて
本当は
「人恋し病」
だったりにして

じまん



ホイ

おごり

あ



いんじゃない
別に

俺も
似たような
もんだし

え



あつたかい……

夜毎のエデン



自分も…つて
どういことだろ



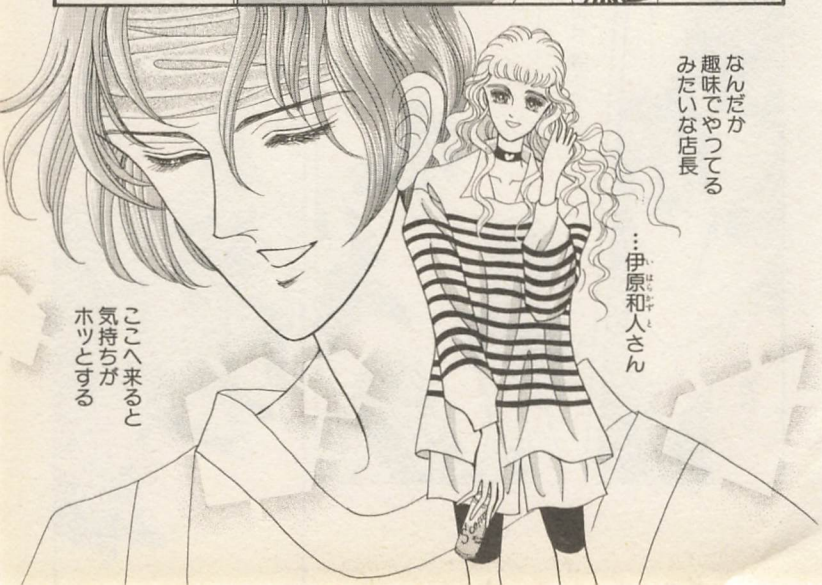
ほら
おでんも
うまいぞ

商売に
なんないよ

いいから

昼間は
どつしめさの

バイト
やとこる



なんだか
趣味でやつてる
みたいな店長

…伊原和人さん

ここへ来ると
気持ちか
ホツとする

毎晩
足が向いて
しまうのは

コンビニの
居心地のよさだけじゃ
ないみたい——

ペントハウス？

うん
この上の
マンションの
素敵ね！

私の部屋からじゃ
よく見えないけど
いいなあ
あんたとこ
住めたら

ふうん…

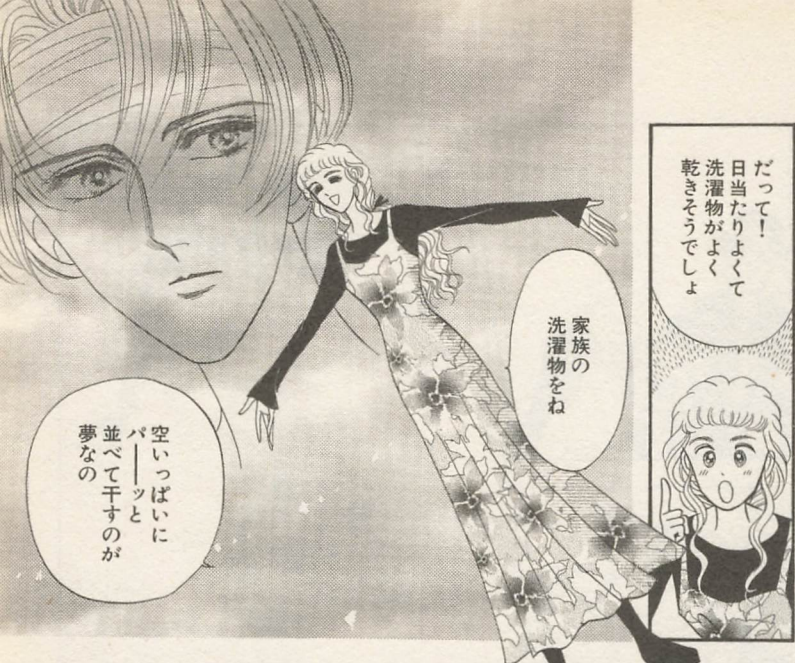
あこがれたり
するもの？

毎日眺めてる！

うん！

……

物好き



だって！
日当たりよくて
洗濯物がよく
乾きそうでしょ

家族の
洗濯物をね

空いっばいに
パ——ツと
並べて干すのが
夢なの



そんな母を見て
大学へ入ると
自分から家
出たの

ひとりのほうが
気が楽かな……って



私
小さい頃に
父を亡くして

中学の時
母が再婚してね
義父はいい人
なんだけど
どうしても
遠慮があつて……
母が
気を遣うの



何より
和人と
話すると
楽しいし



あ

毎日ここ
来ちゃう

結局ネが
寂しがり屋なのね



でも



毎晩あんな
来るの

いつの間にか
待ってるよう
になっちゃった

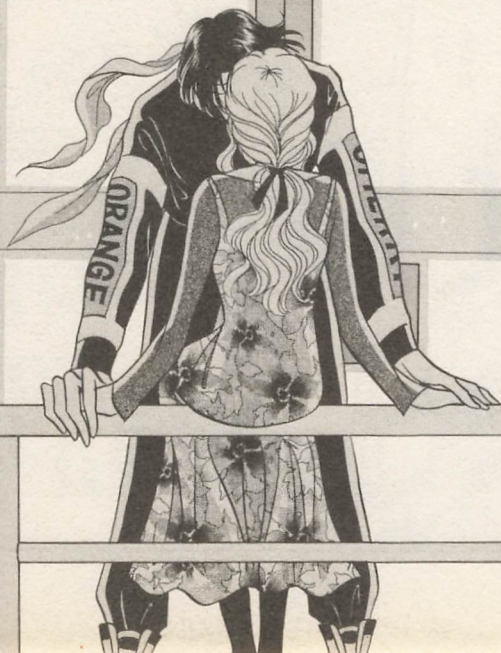
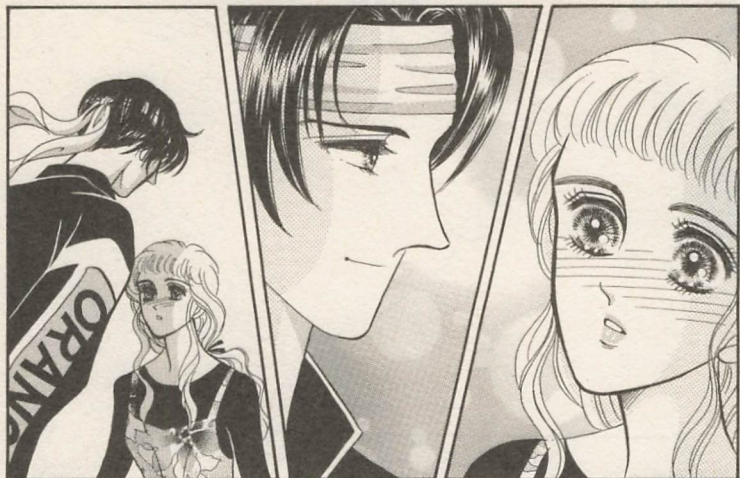


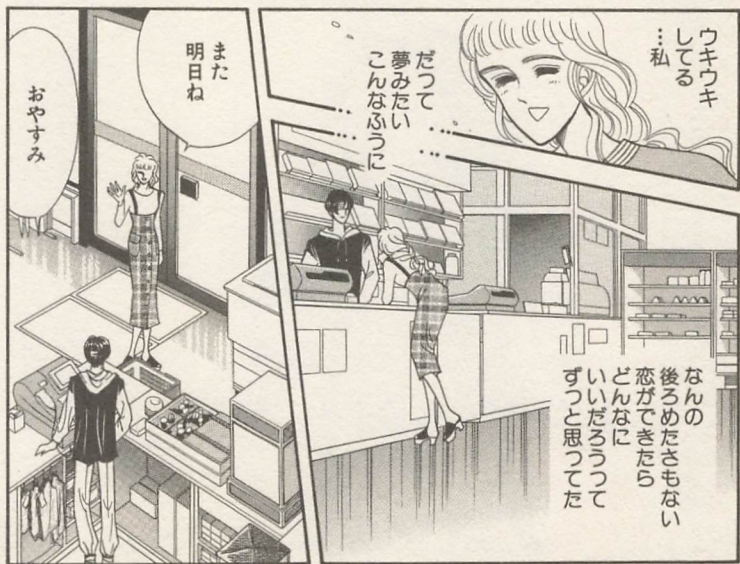
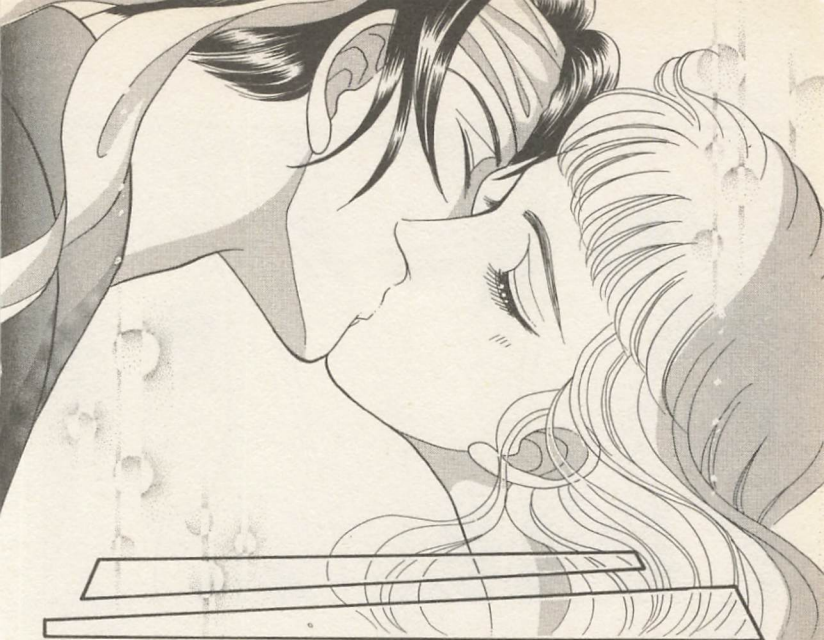
ごめん
変なこと
言ってる

かあめっ

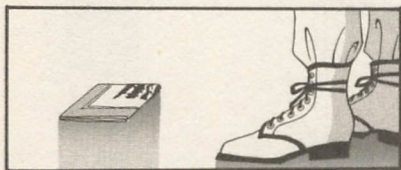
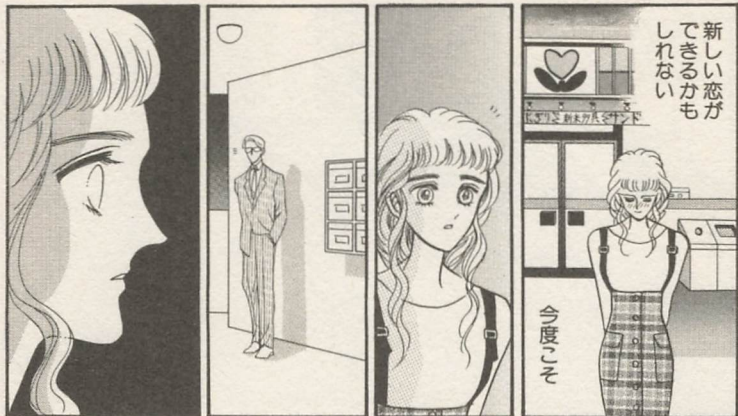
俺もだよ

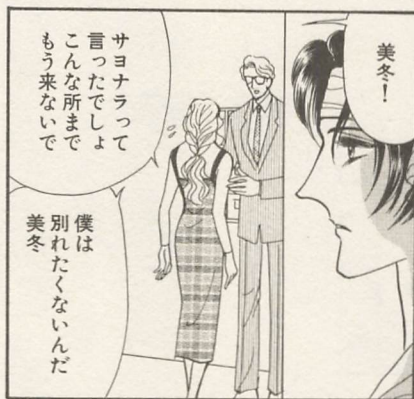
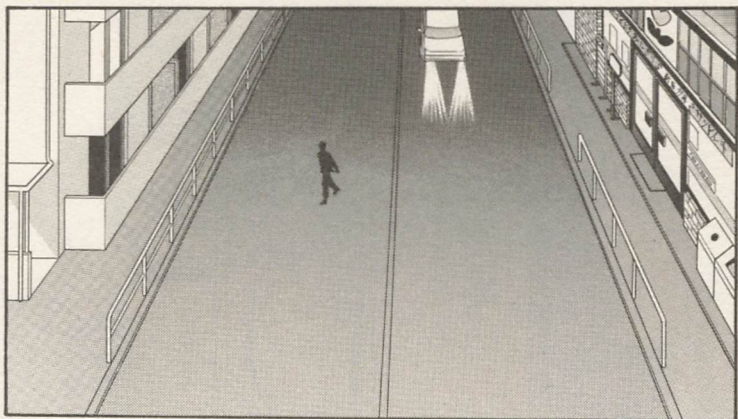
夜毎のエデン





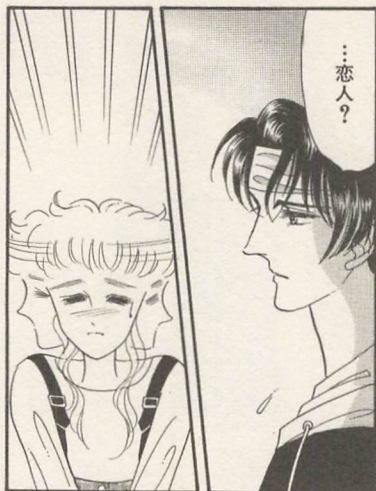
夜毎のエデン



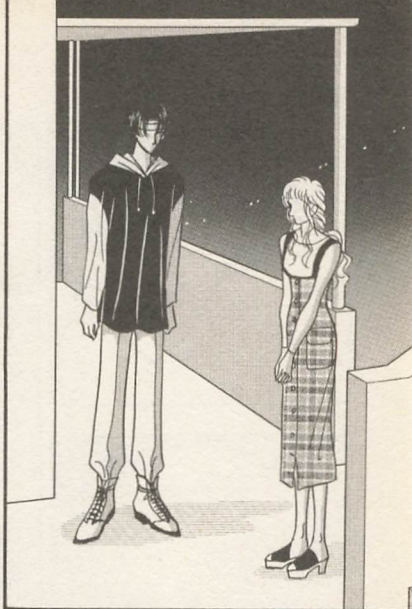


夜毎のエデン





恋人？



新しい恋が
できればって

そう思って…



終わった
恋なの！

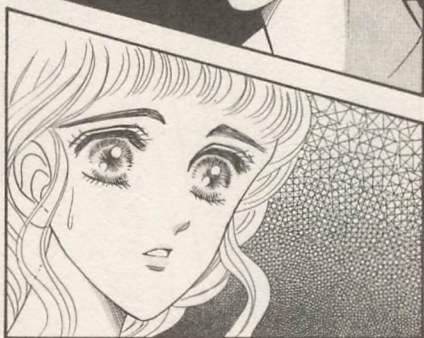
逃げてきたの
私…終わりに
しなくちゃって！

少しでも遠くへ
離れようって
引越して

そして

…うん

夜毎のエデン





美冬！

本気で
好きだったの！

だけど…
だけど信じて
私本当に
和さんが
好き…！！



——
ちきしょう！



バチが
当たつたんだ

逃げるだけじゃ
何も解決しないって
…わかつてたのに



弱虫な私が
幸せな恋なんか
夢見たりしたから……

もう
会えないよ…

大バカな私

最低の私……!



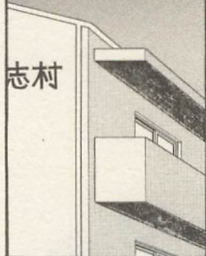
和人さんが
好きだったの

本気で
好きだったの！

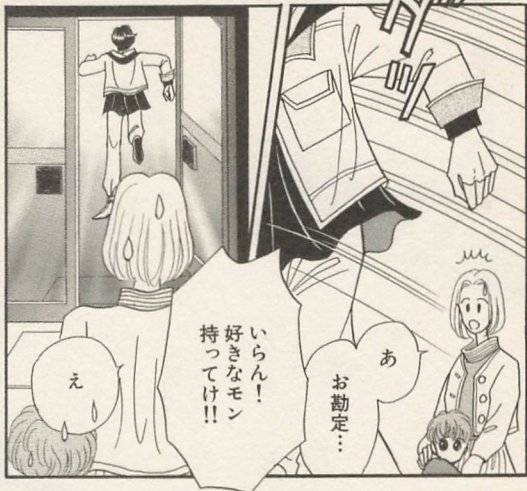
あいつ！
また…！

はっ

グア-



志村



いらん!
好きなモン
持ってけ!!

え

あ
お勘定...

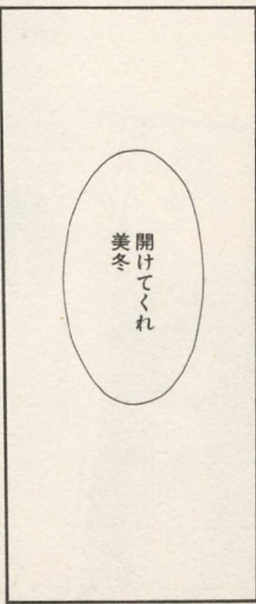


美冬
愛してるんだ



君がいないと
だめなんだ
わかってるだろう

頼むから



美冬
開けてくれ

夜毎のエデン





か：関係
ないだろう
君は

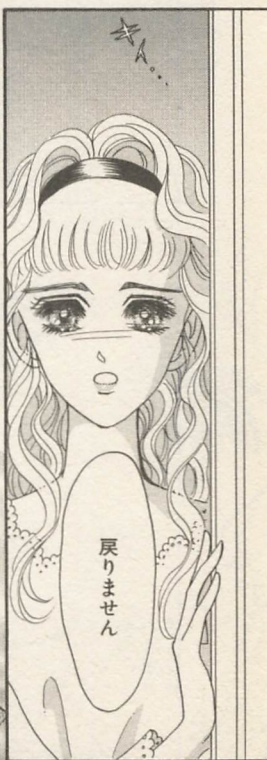
放って
おいてくれ
これは僕と
美冬の：

先生：私は
二度と先生の
ところへは
戻りません



先生にとつて
私は：きつと

コンビニのような
女だったんだわ



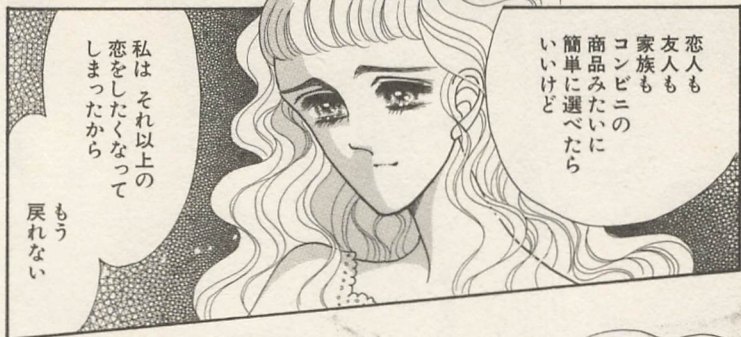
戻りません

都合のいい時に
立ち寄って
気軽に入入りできる

だけど私は
もうだめ

ホッと
ひと息つける
場所

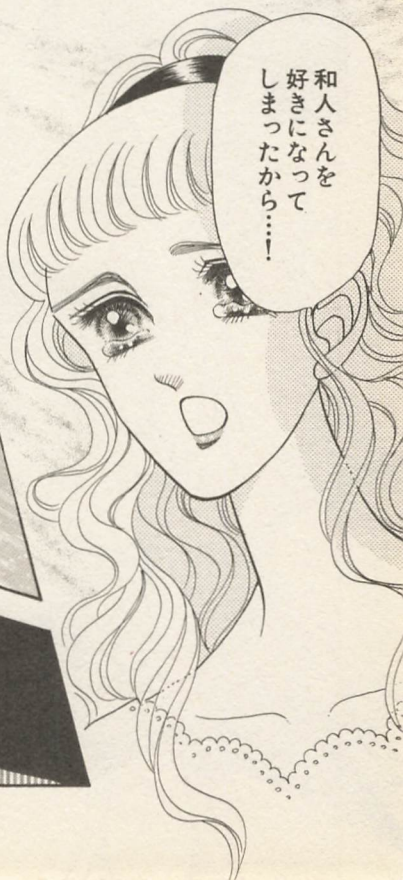
そんなのは
つらくなって
しまったの



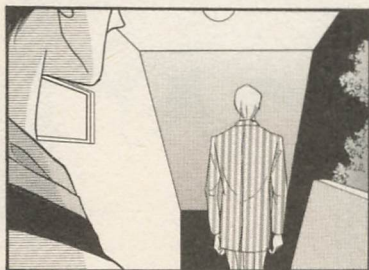
恋人も
友人も
家族も
コンビニの
商品みたいな
簡単に選べたら
いいけど

私はそれ以上の
恋をしたくなって
しまったから

もう
戻れない

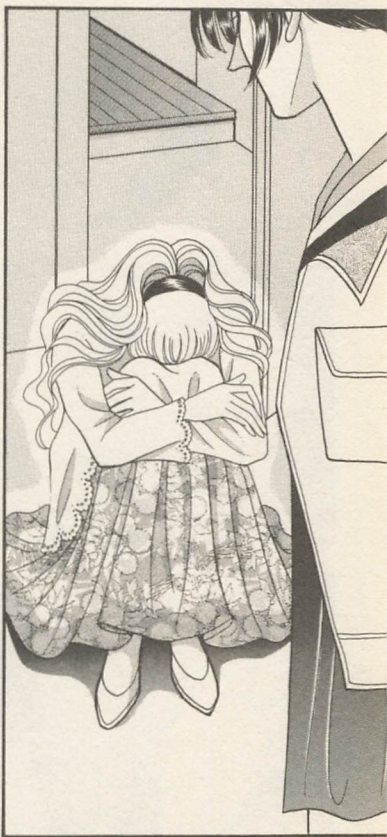


和人さんを
好きになって
しまったから……！





美冬



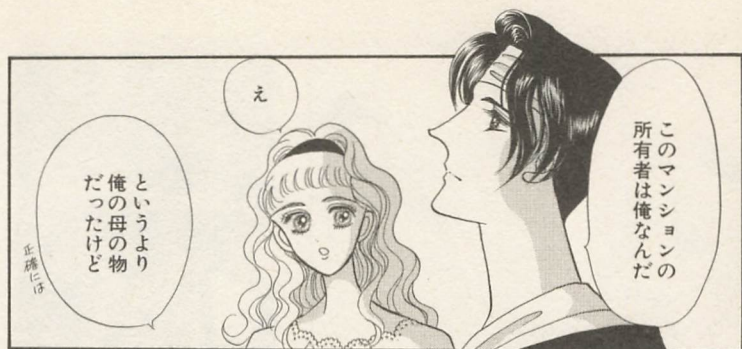
私を…

まるごと
ザブザブ洗って
もとのまっ白な私に
戻せたらいいのに…



もっと早く
和人さんに
会えてたら
よかったのに…





このマンションの
所有者は俺なんだ

え

というより
俺の母の物
だったけど

正確には



俺の母はね
大きな不動産会社の
社長の愛人を
してたのさ

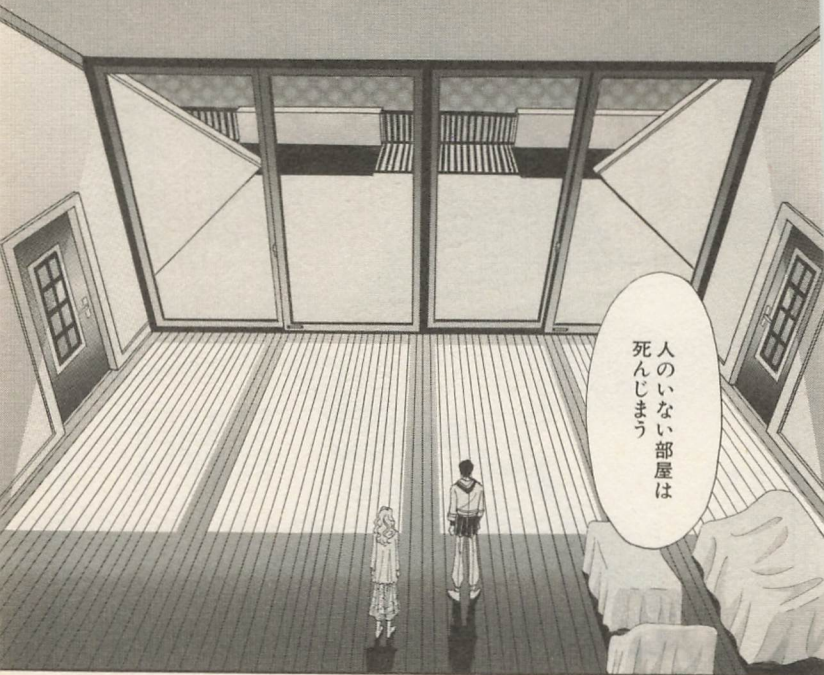
そうして
俺を産んだんだ

愛人として
幸せとは言えなかった
母のために
父への反発もあって
マンションをくれ
なんて言っただけ…

このマンションは
手切れ金代わりに
その男から
俺が17の時に
ぶん取ったのさ

その時の俺は
ツツパリながら
何か愛情の証が
欲しかったのかも
しれないな

結局
母はすぐ
あの世へ逝っちゃまうし
ごらんとおりさ





コンピニを始めたのも
気が紛れるなら
なんでもよかったんだ

そうして
生きてきた



だけど君は
ここへ
いっばいの
洗濯物を
干したいって
言ったろ

その時 俺には
君の後ろに
青空が見えたよ



あの時
君とならって
思えたんだ



俺と一緒に
ここで
暮らさないか



もう美冬を
放したくない

A large speech bubble containing the text, positioned in the middle of the page.





ちがうと思うぞ...

